

イスラエル・ユダヤ・中東がわかる隔月刊雑誌

みるこす

No.179

12

2021

❖ 聖書の世界 エッセイ

ベツレヘムの星

池田 裕



❖ イスラエル音楽家との出会い

何にも代え難い宝物

村上義弥



イスラエルの荒野に輝く星々

もろもろの天は神の栄光をあらわし

おおぞら

穹蒼はみ手のわざをしめす

(詩編 19 編 2 節)

《42 頁～「ベツレヘムの星」参照》



ミルトスはイスラエルに育つ低木。常緑でその葉は芳香を放ち不死と成功の象徴とされた。(イザヤ 41:19)

■ 中東・イスラエル情報

■イスラエル並びにユダヤ人に関するノート■

パレスチナのテロ組織に関する公安調査庁の報告書 —— 佐藤 優 5

■イスラエル 多角多論■

ユダヤ教超正統派の葛藤 —— 齋藤真言 13

■日本の非常識からみた中東の非常識■

ユダヤを巡る残念な人々 —— 滝川義人 26

■知っておきたい中東・イスラム■

男性の身だしなみ —— 光永光翼 66

● 聖書・歴史

瞑想のすすめ —— ラビ・ナフマン／ラビ・ナタン 22

●一つの神と三つの宗教●

一神教の系譜 —— 塩尻和子 30

●目からウロコの新約聖書●

使徒パウロが観たオリンピック —— 藤原豊樹 38

●サムエル記講話●

アマレクとの戦い —— ラビ・ベニー・ラウ 58

▲ エッセイ

▲聖書の世界 エッセイ▲

ベツレヘムの星 —— 池田 裕 42

▲イスラエル御馳走帖▲

エルサレム・ミックス・グリル —— 越出水月 50

▲イスラエル音楽家との出会い▲

何にも代え難い宝物 —— 村上義弥 70

表紙の絵：「目を上げると、遠くにその場所が見えた」（モリヤの丘、創 22:4）【画・藤井克之】

ユダヤのユーモア 4 教えて！ヘブライ語 53 聖書の人物紹介 56

ブックレビュー 74 シネマレビュー 77 声のひろば 80

編集後記 82

パレスチナのテロ組織に 関する公安調査庁の報告書

佐藤 優

イスラエルがパレスチナNGO
をテロ組織に指定

Z君、日本のマスメディアは、イスラエルの生存権について正確に理解していません。総論としてはテロリズムに反対しているにもかかわらず、パレスチナ問題になると及び腰です。その傾向が端的に表れているのが、イスラエル政府がパレスチナのNGO（非政府

組織）いくつかをテロ組織に指定したことに関する「朝日新聞」の報道です。

イスラエル、パレスチナNGOを「テロ組織」指定 逮捕も可能に

イスラエルが、パレスチナの人権NGOの6団体を「テロ組織」に指定し、国内外で波紋を呼んでいる。イスラエルは「テロ組織の資金源になっている」と主張する

が、国際的に著名な人権団体が対象となり、批判の声が上がっている。

イスラエルのガンツ国防相は10月22日、パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区ラマラにある人権団体「アルハック」など6団体を「テロ組織」と指定した。さらに、イスラエル軍は今月7日、6団体をテロ組織であると決定。決定に基づく逮捕などを可能とした。



〔撮影：森清〕

ユダヤ教超正統派の葛藤

齋藤真言

カシエル携帯電話

10月12日夜のニュースで、エルサレムのある携帯電話ショップでの騒動が報じられた。白髭を蓄えたユダヤ教超正統派（ハレディーム）の老人が同じハレディームの若者に掴みかかり、イディシ語とヘブライ語で「馬鹿者、恥を知れ！」と何度も繰り返し、その若者に拳を振りかざしていた。その老人の激しい憤りは画面からも十分に伝わってきたが、

一体何があったのだろうか。レポーターの説明によると、ショップで携帯電話を購入しようとした若者に対し、その老人が購入を思い留まるよう忠告したが、若者がそれを無視したというのが原因らしい。

実はこの携帯電話ショップは、ハレディーム社会で受け入れられている「コーシエル携帯電話証書」の取得を拒否して携帯電話を販売しており、以前から一部のハレディームたちが抗議していたという。

「コーシエル（カシエル）」とは通常ユダヤ教の食事規定を指すが、食べ物以外でもハラハー（ユダヤ教の慣例法規）に照らして適合していれば「カシエル（適している）」と呼ばれる。例えば台所や食器、冷蔵庫といった食事に関連するものはユダヤ教徒の間ではカシエルであるかが重要な問題である。

そして技術革新の産物である携帯電話も、ユダヤ教の戒律に適合していれば「カシエル携帯電話」と呼ばれる。千数百年も昔から受け継がれてきた戒律を現代社会にどう適用させているのか。この問題を掘り下げていくと、ハレディーム社会が何に根差し、何を目指しているのかが垣間見える。今回は、イスラエルに住んでいても普段あまり接することのないハレディーム社会について、その葛藤と多様性を探ってみたい。

瞑想のすすめ

ラビ・ナフマン
ラビ・ナタン

(河合一充訳)

【編集部より】ユダヤ教における瞑想とは、目を閉じて静かに自己の心と向き合うことではありません。特にラビ・ナフマンの言う「瞑想（ヘブライ語でヒトボデドゥート *hitvaddut*）」というヘブライ語は、「独りになること（ボデッド *beded*）」に由来し、外界から離れて孤立することを指しています。そしてそれは、沈黙を考することだけが目的ではなく、神に語りかけ神と対話するためでした。

ラビ・ナフマンの思想を理解する助けとして、その語録を集めた『ラビ・ナフマンの瞑想のすすめ』（ミルトス刊）から抜粋して転載いたします。

*

瞑想は、すべての道のうちで最高のものである。したがって、人は部屋の中か野外において自分一人で瞑想するために、毎日一時間かそれ以上を取っておかなければならない。

瞑想は、神との会話より成るべきだ。人はその創造者の前に自分の言葉を注ぎ出すことができる。それはいろいろの不平等き言でも、弁解でも、恵みを求める言葉でも、あるいは受けいれることでも、服従の思いでもよい。人は、神が自分を身近に近づけてくれるように、そして真実に神に仕えることを許してくれるように、乞い願わねばならない。

人の神との会話は、悔（かい）いることや悔恨（かいこん）より成って

日本の非常識からみた中東の非常識

ユダヤを巡る残念な人々

——個人から国家レベルまで

滝川義人

歴史に関する無知、偏見を象徴する事件が、相変わらず起きています。ユダヤ民族の歴史も社会も知らぬのに、ユダヤの経済支配といった反ユダヤ主義者のいかがわしい言説を、

持ちだす人。別に反ユダヤ思想の持ち主とは思えないのに、「恰好いい」を判断基準にして、それで歴史上の悲劇を嘲笑し、その犠牲者の痛みに塩をこすりつける人。一方アラブ・イスラム世界では、ユダヤ人国家の

存在権拒否という現代の反ユダヤ主義が、相変わらず横行している。

○ 奇妙な主張の立候補者たち

今年10月の衆議院選挙は、自公政権の継続という結果に終わったが、選挙では、奇妙な意見の持ち主が、よく立候補する。

筆者の学生時代、特に目立ったのが清水某候補で、選挙の度に「原水爆戦に備え、東京を地下都市にす

る」と唱えて、立候補した。何もない大平原に最初から地下都市を建設するのは莫大な金と労力、時間を要するだろうが、現代の技術をもってすれば可能かも知れない。しかし、既存の東京を破壊し、平地にして、その地下に人口1000万を越える都市を作るのは、想像を絶する。羽田空港や港湾施設はどうするのか。飛行機と船舶を共に地下に潜らせるのか。

選挙時ユダヤ禍を唱えて立候補する人もいます。反ユダヤ本がたくさん出版されていた1990年代には、ユダヤ禍、ユダヤの陰謀を唱える「地球維新党」というのがあった（日本維新の会とは関係がない）。同性愛者の権利と同時にユダヤ禍を唱える「雑民党」というのもあった。普通の人間には、2つの主張の結びつきが理

一神教の系譜

塩尻和子

● 古代イスラエルの一神教

ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、一神教と分類されるこれらの宗教はいつから始まったのか？ 一般にはヘブライ語聖書（旧約聖書）の記述に従って、紀元前2000年ころ、ユーフラテス川のほとりで牧羊を営んでいた族長アブラハムが唯一の神ヤハウエのみを信仰するようにという命令に従って、この神と契約

を結び、自らのヘブライの民が神によって選ばれた特別な民であり、この民が繁栄する場所として約束の地カナーンを与えられたことから始まるとされている。

この「アブラハム契約」では、神は一方的にヘブライ人の人口を増やし、約束の地カナーンを与えたときれる。しかし「約束の地を与える」という契約は、本来、黙っていても与えられる土地ではなかったのでは

る。「約束の地」に到着するまでには、ヘブライ人たちは移住していった各地で先住民たちとの命がけの戦いを繰り返していくことになる。

やがて長い年月がたち、ヘブライ人たちは飢饉を逃れてエジプトへ移住するが、エジプトでファラオの圧政に耐えられず、モーセに率いられたヘブライの民は、再び約束の地、カナーンへ戻ろうとする。しかし、その旅路はまたしても先住民たちとの激しい戦闘に打ち勝って初めて通り抜けられる道のりであり、苦難の末にたどり着いた約束の地カナーンもすでに他民族の郷土となっていた。こうして、神との契約による約束の地は、自ら戦いに勝って初めて手に入る「土地」であった。

ヘブライ人は、世界を創造した唯一の神との契約によって、将来には必ず世界を支配する聖なる選民にな

使徒パウロが観た オリンピック

藤原豊樹

○神々に近づく祭典

今年は今世界がコロナ禍に翻弄されている中で、オリンピック競技大会が東京で開かれました。各国の選手が熱戦を繰り広げ、大きな感動が国境を越えて伝わっていききました。近代のオリンピック大会は古代ギリシアの「祭典競技会」を現代に再現しようとして始

まりましたが、今日では「スポーツの祭典」と言われ、国際的なスポーツ大会として最大の規模を誇っています。

オリンピックという名称はギリシアのオリンピックという地名由来しています。今も4年毎にオリンピックア遺跡で凹面鏡を用いて太陽から採火された火が持ち運ばれ、開催都市のスタジアムに設置され

た聖火台に点火されているのはご承知のとおりです。

ところが古代ギリシアの競技会はスポーツ大会ではありません。ラテン語で、「気晴らし、気分転換」という意味があります。しかし古代ギリシアの「競技会」は



オリンピックの競技場跡

ベツレヘムの星

池田 裕

● 柿くへば

昨年は不作だった向かいの家の柿の木が、今年は多くの実をつけている。

柿は海外でも人気の果物。ヨーロッパ産の柿の大半はスペイン・カキらしいが、イスラエルも自分たちの気候風土を生かしてその生産と輸出に力を入れている。鮮やかなオレンジ色の実は、晩秋のイスラエルの青空にもよく映える。

ハイク（俳句）の場合同様、カキはヨーロッパの多くの言語においても日本語がそのまま用いられ、“カキ”（Kaki, cagui, cachi）である。それは、リンネに学んだス

ウェーデンの植物学者・医学者で、シーボルトより前の1775年（安永4）に長崎オランダ館医として来日したツウンベリー（1743～1828年）がカキノキに付けた学名（*Diospyros kaki* Thumb）による。ヘブライ語では、もともと芳香性樹脂バルサムを指す語であった“アフアルセモン”が、カキを指す用語として用いられている。カキ、ハイクと来て、次にだれもの頭に思い浮かぶのは、子規が奈良の法隆寺そばの茶店で一服していたときに詠んだ句

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

であろう。正岡子規（1867～1902年）は、23歳の

エルサレム・ミックス・グリル

越出水月

❖ ストリートフード天国

イスラエルには、アジアのよう
な路上の「屋台」は少ないけれど、
注文してそのまま路上でかぶりつ
く「ストリートフード」はたくさ
んある。袋状のパン「ピタ」にさ
まざまな具材を挟んで注文するサ
ンドイッチのようなイメージだ。
間口の狭い店にはアイスクリーム
屋のショーケースのようなものに
サラダが入っていて、メインを選
んだ後にそこから野菜類をあれこ

れ注文し、外のベンチや公園で食
べるのが一般的だ。

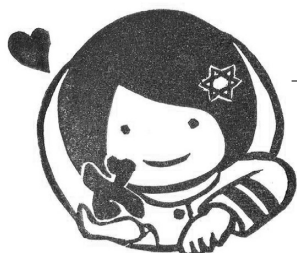
ひよこ豆のコロッケとサラダや
さまざまなおソースをピタパンに挟
んだ「ファラフェル」、日本でも
ドネルケバブとして知られている
「シャワルマ」（ドネルケバブはトル
コ式なので味付けが違ふけれど）、以
前こちらで紹介した揚げ茄子とゆ
で卵の「サビーフ」、そして今回
ご紹介する鶏の内臓のスパイス炒
め「エルサレム・ミックス・グリ

ル（ヘブライ語で、メオラブ・イエ
ル「シャルミ」）である。

❖ 元祖が並ぶ通り

名前のとおり、エルサレム名物
で、エルサレムの市場マハネ・イ
エフダに沿うアグリッパス通り
には老舗有名店が軒を連ねる。こ
こがエルサレム・ミックス・グリル
発祥の地だと言われており、いろ
いろな店が「うちが元祖」と主張
している。

アグリッパス通りはマハネ・イ
エフダ市場の裏側にあり、イラク
系やジョージア（旧グルジア）系ユ
ダヤ料理店が立ち並ぶエリアとも
接している。片側1車線の細い道
なのに市場に来た人たちを乗せる
タクシーや家用車、作業用トラ
ック、バスでこた返っていて、
賑わっているけれど、なんだか排



“聖別する”

Q.27

って何ですか？

スタンプアート：
〈ごっどもみるく〉
GOD MILK

みさとさんの素朴な疑問に、ヘブライ語のオゼル先生が答えるコーナー

ヘブライ語聖書対訳シリーズ『創世記 I』で創世記の原文を読んでいるみさとさん。今日の質問は何でしょうか。

みさと 創世記 2:3 で質問です。「神は第七の日を祝福し、これを聖別された」とありますけど、「聖別」という意味がよく分かりません。ヘブライ語の **וַיְקַדְּשׁוּ** 〈ヴァイエカデシュ〉にはどんな意味があるんですか？

オゼル先生 この動詞の語根は **קדש** です。それを説明する前に、みさとさんに質問です。日本語の「聖」の意味を教えてください。

み 『広辞苑』によると「知徳が最もすぐれ、あまねく事理に通じていること。また、その人。けがれなく、尊いこと」とあります。ということは、神様が第七の日をけがれなく、尊いものにされたという意味ですか。

先 確かにそういう意味もあります。

しかし、この語根の基本となる意味は「分離する」です。そこが日本語の「聖」とは少し違う要素ですね。ですから、日本語の「聖別する」という訳語は、「^わ別ける」という要素が入っているので、とても良いと思います。

み そうなんだ～。でも、何から「別ける」んですか。

先 では、**קדש** という語根から派生した単語が聖書の中でどう使われているか見てみましょう。まずは動詞からです。「聖別する」と訳されるものですが、何を聖別したのか主な目的語を列挙してみます。

- 第七の日（創世記 2:3）
- 安息日（出エジプト記 20:8）
- 祭司（出エジプト記 28:41 等）
- 幕屋や祭具（出エジプト記 30:29 等）
- 戦利品（サムエル記下 8:11）
- 神殿（列王記上 9:3）

אתו
ートオ
をれそ
尾・前

וַיְקַדְּשׁוּ
ユシデカエイアヴ
たし別聖てしそ
単男3未ビ・倒

יָמֵי הַשְּׁבִיעִי
ーイイヴエシハ
の七第
男序数・冠
単男

אֱלֹהִים
トツエ
を
前

אֱלֹהִים
ムーヒルエ
は神
複男

וַיְבָרֶךְ
ふレーアヴエイアヴ
たし福祝てしそ
単男3未ビ・倒

創世記 2:3

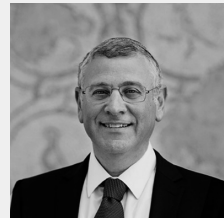
サムエル記講話

《サムエル記上15章》

アマレクとの戦い

ベニー・ラウ

(那須雄二訳)



הרב בני לאו

●アマレクという民族

前回はサウルが軍隊を創設したところで終わりました。「サウルは、勇敢な男や力のある者を見つけると、皆これを自分のもとに召した」という言葉で14章は終わります。サウルは大きな軍隊を作り、周辺にいるあらゆる民と戦争して勝利しました。また、自分が力ある王として民に認められることにも成功しました。これは確かに良いことのように思えますが、次の章になると状況が変わっていきます。

15章はアマレクとの戦いにスポーツが当てられます。これは他の戦争とは全く違う戦いでした。今まではイスラエルを取り巻くモアブやアンモン、エドム、ペリシテといった敵との政治的・地政学的な戦争でした。彼らはイスラエルの領土を浸食し、経済的に破壊しようと挑んできました。これらの敵に対し、サウルは自ら作った軍隊で戦い勝利を収めました。しかしアマレクとの戦争は宗教的な戦いです。そしてこの戦いがきっかけで、サウルの任期は終わりを迎えることとなります。

そもそもアマレクとはどんな民族でしょうか。彼らとの最初の戦いは出エジプト記に記されています。エジプトを出立したイスラエルの民がレフィデムに着いた時、初めて戦ったのがアマレクでした。それは、モーセが手を挙げている間はイスラエルが強くなり、手を下げるとアマレクが強くなるという戦いでした。モーセの手が下がらないようアロンとフルが両側から支え、ヨシユアがアマレクを剣で打ち破りました。その時、主はモーセに「私はアマレクの記憶を天の下から完全に消し去

男性の身だしなみ

光永光翼

男らしさや権威の象徴

私が子供の頃、男性化粧品のリビCMで「うーん、マンダム」というのが流行った。口ひげがトレードマークの映画俳優チャールズ・ブロンソンが最後に言う決ゼリフを、私もアゴをさすりながらよくモノマネをした。ひげは男の身だしなみ、大人になったら一度は格好良いひげを伸ばしたり綺麗に剃ったりしてみたいと思ったものである。

20代でイスラエルやエジプトに

留学した際、中東ではひげを生やしている男性がとて多いに驚いた。口ひげ、顎ひげ、頬ひげ、無精ひげ、中には山羊みみたいな形のものや仙人のような長いもので、スタイルは人それぞれである。朝の洗顔時、ヘアースタイルを整えた後、丹念にひげの手入れをしている人もいた。

中東では古代より、ひげを蓄えることが男らしさと力強さの象徴とされ、知恵と権威を表すもので

もあった。古代オリエントでは、地位の高い人物は顎ひげを伸ばした上に、さらに付けひげを足していたほどである。基本的に体毛量の多い民族なので、ひげはどんな伸びたようである。

とりわけ5000年前のメソポタミアでは、顎ひげのない男性は一人前と見なされなかった。ひげの生えない男性は皆に馬鹿にされたという。日本では「仕事に来るならひげを剃ってこい」と怒られるが、そこは「仕事に就くならまずひげを生やしてこい」なのである。ひげが長くて立派なほど尊敬を集めたそうである。残された彫像や壁画などを見ると、どの男性にも波打つ立派な長い顎ひげが蓄えられているのが分かる。

何にも代え難い宝物

村上義弥

私が長年にわたって取材してきたイスラエル音楽家を紹介するこのエッセイも、今回が最終回となった。前号のヨッスイ・グリーンさんをもって、詳しく取材することのできたほぼすべての音楽家を本誌面で紹介したことになる。この12年間で総勢36名となった。2009年に本誌エッセイのお話をいただいた時、文章を書くのが苦手な私はだいぶ躊躇したが、編集部との協力もあって何とか初回の「ナオミ・シエメルさん」を書き上げることができた。その後、

こんなに長く書かせてもらうことになるとは思ってもみなかった。

一番印象に残っている音楽家は誰ですかと聞かれたことがある。

どの音楽家とも忘れ難い思い出が詰まっているのだが、その中から数名の思い出を記して、この連載を終えたいと思う。

◆ ナオミ・シエメルさん

ナオミ・シエメルさんはイスラエルを代表するシンガーソングライターで、イスラエルでは知らない人がいないほど有名な人物であ

る。彼女が作った作品の中では、1967年に発表した「黄金のエルサレム」が最も有名だろう。発表直後に勃発した六日戦争（第三次中東戦争）で、イスラエルが勝利するのを予見していたかのような歌詞で話題となった。

エルサレムがイスラエルに奪還され、「黄金のエルサレム」が大ヒットしたことにより、エルサレムの曲が次々と生み出されるブームが起きた。今まで政治的な理由によりタブー視されていたエルサレムの歌が、せき止めた川が押し

○ ギャラリー「イスラエルの風」が贈る今月の一枚 ○



「エルサレム夕景」 撮影・平岡真一郎

ここはエルサレム北東の端、東のオリブ山と北の展望山の間位置する小さな野原。左手の林の向こうにはゲッセマネの園がある。黄金色に染まる夕暮れ時のエルサレムは格別に美しい。雨季が終わる頃に行くと、春の到来を告げる真っ赤なアネモネが咲いていた。

★手漉き和紙にプリントした、絵画のような独特な雰囲気をもつ作品です★

サイズ

49×39cm ⇨46,000円
43×34cm ⇨38,000円

制作元：ギャラリー「イスラエルの風」
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-18-24

お問合せは
ミルトスへ

シリーズ新巻

ヘブライ語聖書対訳シリーズ24

エレミヤ書Ⅱ

18
〜
35章

ミルトス・ヘブライ文化研究所 編

A5判・並製208頁 本体2800円(十税)

ヘブライ語聖書対訳シリーズ 24

エレミヤ書Ⅱ

18〜35章

ミルトス・ヘブライ文化研究所編



旧約聖書をヘブライ語原文から日本語に逐語訳する画期的シリーズの最新巻。どんな名訳でも伝わりにくい原典の微妙なニュアンスに触れることができる。

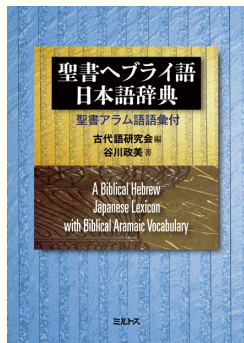
ヘブライ語で聖書を読むための辞典・入門書

聖書ヘブライ語 日本語辞典

聖書アラム語
語彙付き

谷川政美 著

A5判・並製1264頁
12,000円(十税)

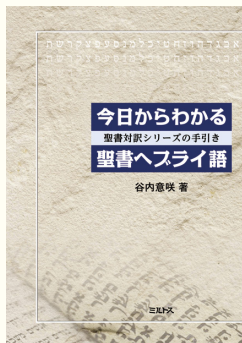


今日からわかる 聖書ヘブライ語

聖書対訳シリーズ
の手引き

谷内意咲 著

A5判・並製112頁
1,700円(十税)



雑誌 89063-12

みるくす 2021年12月号 第179号

発行 株式会社ミルトス 〒10310014

東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-4 4階

定価650円(本体591円)